フォトエッセイ＃１６７

なんとなく函館

３月の初めです
ナナカマドの実がドライフルーツに
あ、鳥にはごちそうですが・・・

この時期の冷たい風が
これまた心地よいのです

2025.3.11
島 田 祥 生

函館のシンボルの一つ「イカ」
市内いたるところで見ることができる
マンホールのふたです

カワイイ、オイシソウ、・・・
ほんと、沢山獲れるようになるといいですね

中島廉売の風物詩
半年前に来たときは１軒だけ
それが３軒に

変に安心しました
冬、魚　合っているのでしょうかね

廉売の中も
このような活気

それぞれの店に
魚がいっぱい
夕方になるとお客でいっぱいになるそうです

今晩はね
高校時代のクラブの後輩と飲むの
あそこにあったトロ
北里さんと替わりました

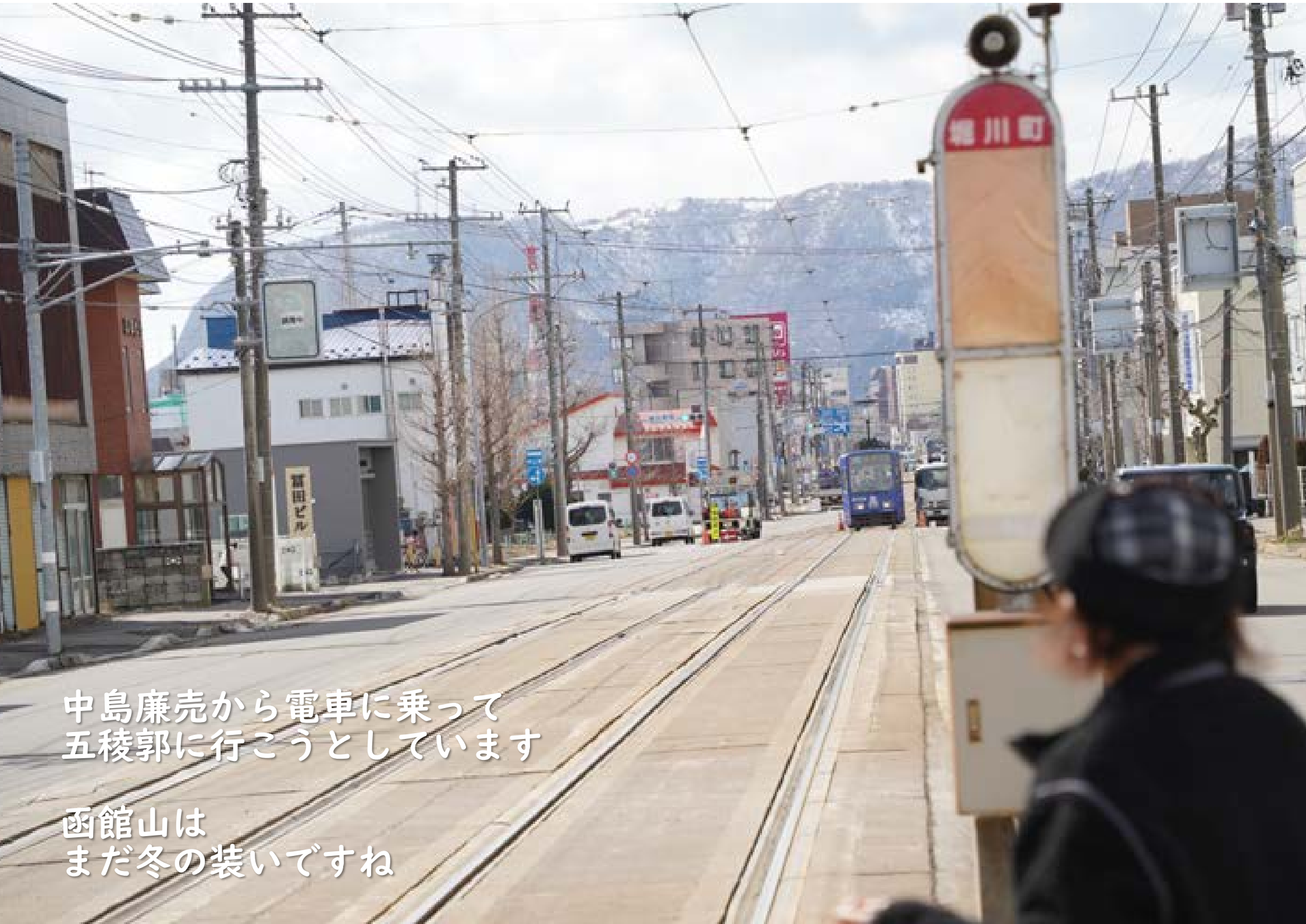
サケ、エビ、イカ
真ん中にあるのは「ごっこ」
コラーゲンの塊のような魚
オスとメスでそして1匹づつ
味が違うらしい
だから名前を付けているんだって

こちらの店は
お惣菜がたくさん
どれもオイシソウ

早くも桜の幕で景気づけ
３月に入ると根雪が解け始めます
でも、桜は５月のはじめ・・・

なんて言ってはいけないですね。
ごめんなさい

この中島廉売にも大きな水槽が
どんな魚が泳いでいるか
詳しい説明が
件の「函館まちかど水族館」の仲間に入ると聞いています



中島廉売から電車に乗って
五稜郭に行こうとしています

函館山は
まだ冬の装いですね

電車は
五稜郭公園前の交差点を右折
その先に停留所があります
まっすぐ行くと五稜郭です

先に降りた二人の会話
朝市、金森倉庫・・・
など、見どころの評価をしている

ずっと聞いていたくて一生懸命ついて行った

あの二人
足が速い！！！

というより、僕の足が遅い
タワー直前に引き離されてしまった
残念

五稜郭タワーの傍にある道立美術館
「文字の芸術をめぐる旅」だって

なんか難しそうだけど
シニアは無料、に引かれて入ってみました

山下清が５月に来る

ノーナレです

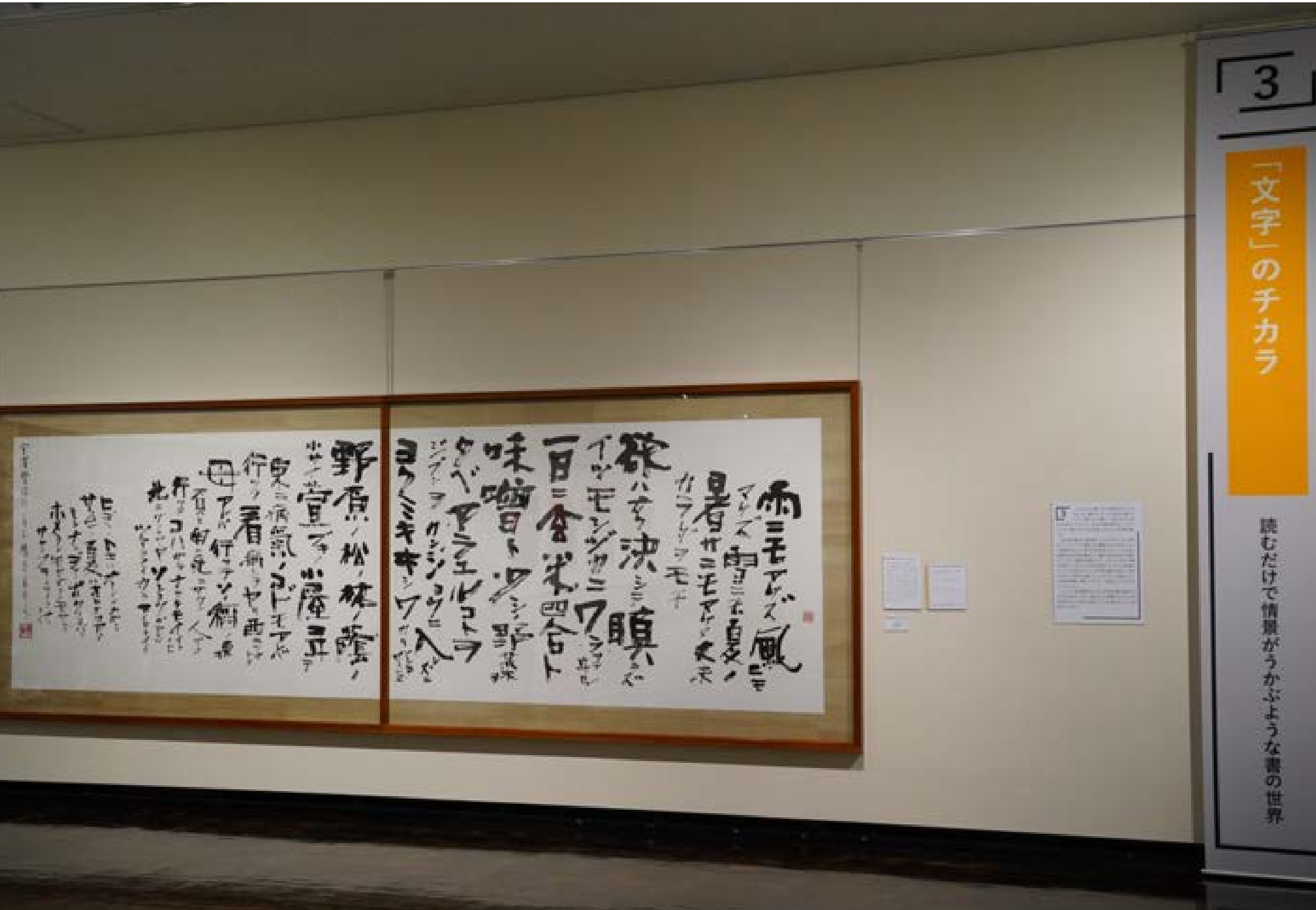
これは、ここの所蔵品だとか
ウ～～～ン

1

文字を「読んで」入ってきた情報と、目で「みた」内容が違っていたら、私たちはどのように感じるでしょうか。本展のメインビジュアルの一つ、岡田博の《RED》は、文字情報と視覚情報のズレをあえて意識させる作品です。

文字を使ったアートには、作家が作品を通して鑑賞者である私たちに「問いかけ」をするような作品がたくさんあります。なかには、意図的に「違和感」を抱かせるような作品もあります。こうした作品を鑑賞するとき、私たちは作品について「考えること」も求められるようになりました。しかし、作家が作品に込めたメッセージを見つけ出すことが難しい場合もあり、かならずしも正解があるわけでもありません。その答えは、人それぞれに異なっている可能性があってもいいのです。

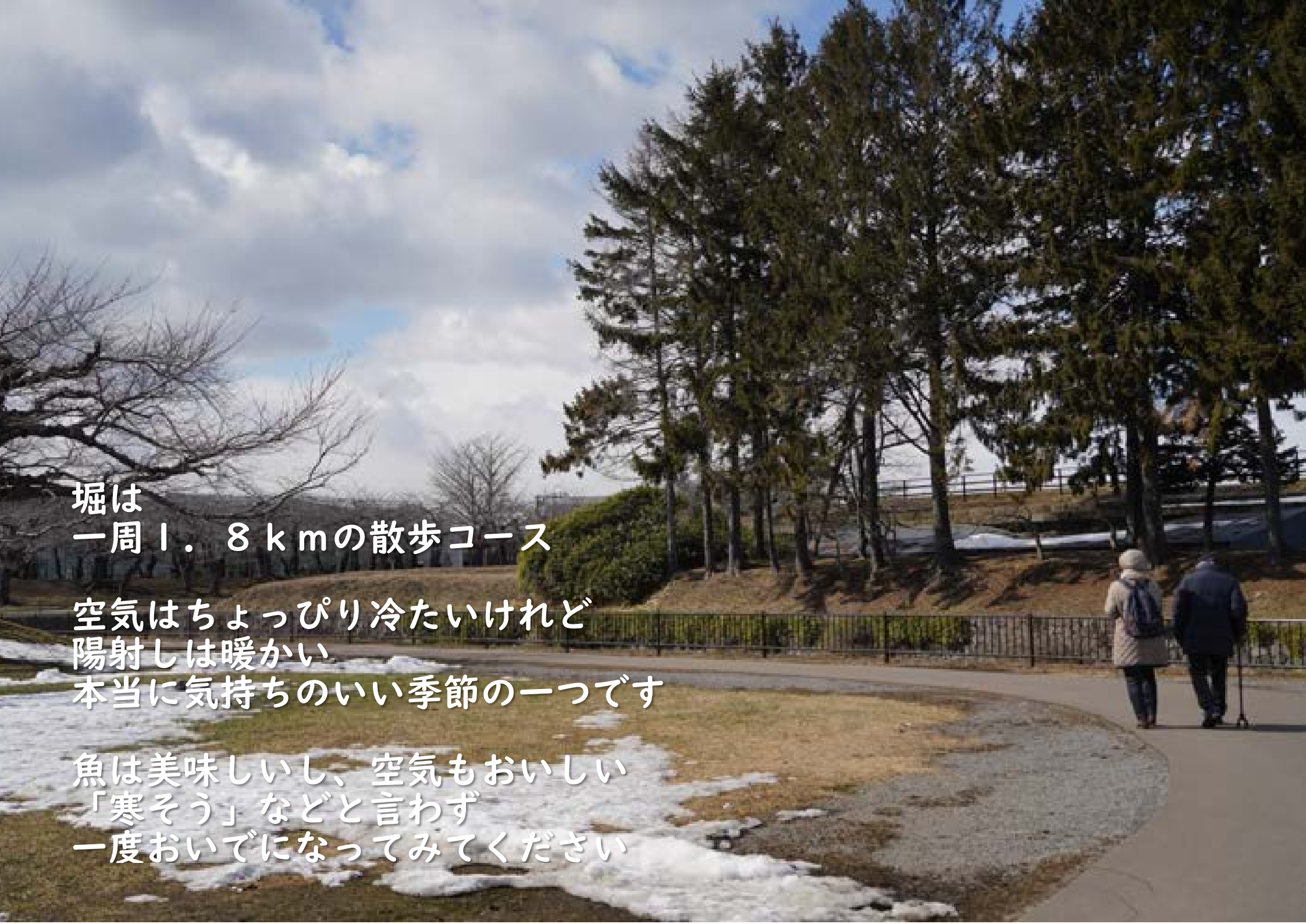
アートのなかにある文字を通して、みなさんの「思考の扉」を開いてみてください。


3
「文字」のチカラ
読むだけで情景がうかぶような書の世界

外に出たら
五稜郭タワーが輝いていました
春の兆しを感じました

五稜郭の正門の橋
観光の一団が気持ちよさそうに

堀にはまだ氷が



堀は
一周１．８ｋｍの散歩コース

空気はちょっぴり冷たいけれど
陽射しは暖かい
本当に気持ちのいい季節の一つです

魚は美味しいし、空気もおいしい
「寒そう」などと言わず
一度おいでになってみてください

暮れなずむ東京の空に帰ってきました

毎日の用が済むと
あちらへこちらへと歩き回り
浩然の気を養ってました

５日後にまた行くことになるとは・・・